

# 市立中央病院特集号

《問合せ先》  
 西宮市立中央病院  
 〒663-8014  
 西宮市林田町8-24  
 ☎ 0798-64-1515  
 FAX.0798-67-4811  
<http://www.nishi.or.jp/~byouin/>



院長 左近 賢人

西宮市立中央病院は、1921年(大正10年)に開設され、今年で85年となります。この間、地域の中核病院として西宮市を中心に医療サービスを提供してまいりました。しかし、最近の厳しい経済環境とともに医療環境も大きく変化し、高度な医療だけでなく、効率的な医療も強く求められるようになり、また、つまり、従来の固定観念によるパターン化されたやり方は通用しなくなるといえます。このような時代に重要なことは基本的な考え方や方針をしっかりとつとめることであると思っております。基本的な考え方の一つは情報科学が進歩した現在、「正しい情報を知って頂き、充分なコンセンサス(納得)のもとに医療を行うこと」と考えています。言い換えれば、事実に基づく医療を実践することであり、事実に基づいて医療を中央病院が「本当に自信をもって提供できる医療は何か」を明確にし、実践していくことが重要であると思っております。また、市立病院として「市民の皆様健康管理や疾病予防にどのように貢献できるのか」を追求していくことであると思っております。言ってみてもなく、これにはハード面だけでなくソフト面での病院機能の充実が不可欠となります。

## 1 高度な医療を 優しく、確実に

「高度な医療を優しく、確実に」を基本コンセプトとして中央病院の将来計画を作成し、平成18年度から自負できる診療機能のセンター化の第1弾として、内視鏡センターが10月にオープンします。従来は手術しかなかった胃がんの治療も、早期がんであれば内視鏡カメラを用いた処置で切除可能で、また、低侵襲手術治療チームが既に発足して、手術が必要で、手術が困難な場合でも腹腔鏡下手術など、カメラを用いた手術により傷の小さい低侵襲手術が可能です。プロ野球の王貞治監督がされた胃を全部摘出する手術や、大腸を全部摘出する腹腔鏡下手術も可能です。

「開放型病院」の認定取得  
 西宮市立中央病院は、平成18年10月1日付けで、開放型病院として認定を受



開放型病院とは、初期治療や慢性の継続診療は、診療所の医師(かかりつけ医)が行い、専門的な検査や入院が必要な治療は病院が行うということです。当院では、診療所の医師(かかりつけ医)との連携のもと、それぞれの機能に応じたより良い医療を皆様に提供することを目指しています。

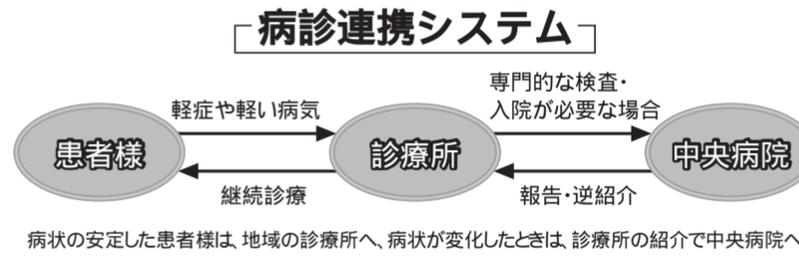
## かかりつけ医を大切にしよう 病診連携システムについて

病診連携とは、初期治療や慢性の継続診療は、診療所の医師(かかりつけ医)が行い、専門的な検査や入院が必要な治療は病院が行うということです。

開放型病院として認可を受け、開放型病床(5床)の運用を開始しています。開放型病床では、かかり

開放型病院共同診療とは、かかりつけ医の先生と当院主治医が連携し、患者様に安心して継続した医療を受けていただくための制度です。当院の主治医とかかりつけ医の先生が治療方針等について話し合い、共同で診療にあたります。

開放型病院共同診療とは、かかりつけ医の先生と当院主治医が連携し、患者様に安心して継続した医療を受けていただくための制度です。当院の主治医とかかりつけ医の先生が治療方針等について話し合い、共同で診療にあたります。



## 2 患者様の 目線と責務

最近、医療関係者の間や報道などで「患者さまの目線」という言葉がよく聞かれます。患者様の気持ちや苦痛はご本人でないと充分に分らないことが多くあります。現役の医療従事者は本来健康であり、患者様の心の痛みや苦痛を完全には理解できません。そのため、患者様の苦痛が解るようになり、常に自覚して努力を払わなければなりません。中央病院としても前述のよう「高度な医療を優しく、確実に」を基本コンセプト

## 3 開業医の先生 方との連携

中央病院の機能を効率的に発揮させるためには、かかりつけ医の先生方(地域の診療所)との連携が非常に重要で、これを「病診連携」と呼んでいます。何か体の異常に気づいた場合には、まず、お近くの診療所

最後にになりましたが、本号では中央病院の診療機能を網羅的に紹介しており、かかりつけの先生方共々ご利用いただければ幸いです。

受診されることをおすすめします。それは普段から患者様の状態をホームドクターがよく把握されているからです。そのような「かかりつけ医」を持つことが大切です。

## 医療安全対策室の取り組み

# 病院を、より安全に

### 医療安全対策室の設置

昨今の病院は、患者様へ高度な医療を提供することが求められるのもちろんのこと、患者様の利用される施設・設備を、より安全性の高い環境へ整えることも評価されるようになりました。そのため、中央病院では、平成17年4月に医療安全対策室を設置し、医師と専任看護師長を配置して、院内の安全対策に取り組んでいます。当室の設置目的は、医療事故をはじめとする病院内での事故を未然に防止し、患者様が安心して医療を受けられる良好な環境を整えることです。

### 主な業務

医療従事者がヒヤリとする事例の分析と再発防止策の協議  
 患者様へ医療サービスを提供するにあたり、事故にはつながらなかったものの、職員がヒヤリと感じる事例(インシデント)の周知と再発防止をはかります。  
 患者様が安全性の高い環境で治療を受けられるように改善すること  
 患者様が中央病院で療養される際に、転倒・転落事故の防止など、より安全性の高い環境のなかで治療を受けていただけるように調査し、改善します。

### 改善の具体例

～エレベーターの利用がより安全に～

これまで、歩行器の車輪などが、エレベーターの扉の隙間にはまるこ

とがあり、リスクマネジメント小委員会で検証し、直ちに隙間を埋めるプレートを設置し、改善しました。

この改修により、エレベーターの扉の隙間に、歩行器の車輪などが落ち込むことがなくなり、お体の不自由な患者様も安心してエレベーターをご利用いただけるようになりました。

今後、職員全員に医療安全に対する意識を高め、根付かせることを目的として、医師、看護師、事務職員など幅広い職域の職員がチームを組み、毎月1回以上、「医療安全パトロール」を実施します。各々の点検項目に従い、チェックし、その評価を各部門の責任者に指摘し、改善要求を行います。指摘を受けた各部門の責任者は、改善計画をたてて実践し、報告を提出し、パトロール隊が再度調査を行います。安全への取り組みについて、ご質問等ございましたら、1階・安全対策室(外来師長室内)まで、遠慮なくお尋ねください。



リスクマネジメント小委員会の検証活動

# 体への負担が少ない手術への取り組み!



## 体への負担が少ない手術 (低侵襲手術) (腹腔鏡手術)

痛みが少ない手術である低侵襲手術(ていしんしゅじゆじゆつ)は、体への負担が小さい手術方法です。体に開けた小さな穴から内視鏡カメラを入れて、体の中の様子をテレビに映しながら行う手術、すなわち腹腔鏡(ふくくつきょう)手術が低侵襲手術の代表です。腹腔鏡手術はその傷が小さいことから、従来の大きな傷の開腹手術と比べて、手術後、早く食事を開始したり、歩行をしたりできます。患者様にとっては非常に良い手術ですが、この手術は以下のような理由で、執刀医にとって従来の手術に比べると難しい手術です。立体的視覚がでない、触覚が無い、使用する手術器具の動きに制限がある、などの点です。従来の手術とは全く別の手術と言っても過言ではありません。実際に

## 手術を安全に行うために、充実したスタッフ

日本内視鏡外科学会技術認定医

外科部長 新居延 高宏 医師

日本内視鏡外科学会技術認定医

消化器センター部長 市原 隆夫 医師

泌尿器科腹腔鏡技術認定医

泌尿器科部長 瀧内 秀和 医師

当院では、外科部長・新居延高宏医師、消化器センター部長・市原隆夫医師、泌尿器科部長・瀧内秀和医師が認定を受けております。さらに、当院では腹腔鏡手術の安全性をさらに高めるために、腹腔鏡手術に係わる医師、看護師、事務職員により構成される「低侵襲手術支援チーム」を充足させました。診療科の領域を超えて、中央病院に入院される患者様のために、腹腔鏡手術を支援すべく活動を行っております。

また、当院の低侵襲手術は、必ず技術認定医が立会いの下で行われますので、安心して手術を受けていただけます。では、具体的に当院で行われる低侵襲手術について、御説明させていただきます。

### 外科領域

当院の外科は、消化器外科、呼吸器外科、乳腺甲状腺外科と専門分野が分かれております。消化器外科では、胆石などの良性疾患はもちろん、大腸癌、胃癌など悪性腫瘍

に対しても積極的に腹腔鏡下手術を行っております。特に胆石症は急性慢性胆嚢炎を含めて開腹移行率(途中で開腹手術に切りかえる率)が過去3年間で0%であり、術後合併症も少なく、すべての患者様に対して腹腔鏡下手術が完遂されております。

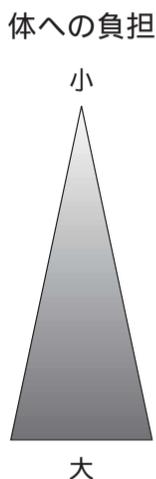
総胆管結石症は、内視鏡を用いてまず総胆管結石を除去した後、腹腔鏡下胆嚢摘出術を受けていただき、早期退院していただいております。

肝臓の方の大半は肝機能障害を有しており手術が制限されることがありますが、当院ではおなかを開けることなく肝腫瘍を凝固壊死させて治療する腹腔鏡下ラジオ波凝固療法を取り入れており多くの患者様に喜ばれております。肝腫瘍の存在する部位によっては、腹腔鏡下肝切除術も施行することも可能です。一方、大腸癌は阪神間では早くから腹腔鏡下手術を取り入れてお

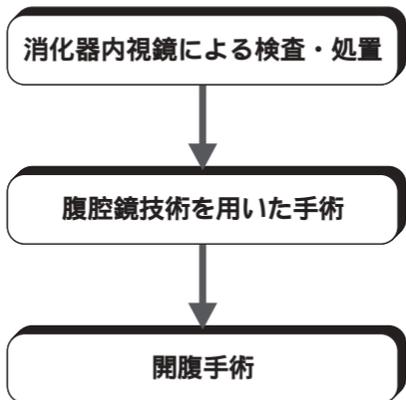
り、手術から退院まで早い方で1週間の入院で済んでおります。すでに現在まで大腸癌の約半数の患者様に腹腔鏡下大腸切除を施行しております。

### 泌尿器科領域

泌尿器科の病気で腹腔鏡手術の対象となる疾患は、腎腫瘍、副腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍などがあります。従来の方法である開腹手術では約20~30cmの大きな傷が残りますが、腹腔鏡手術



体への負担



消化器内視鏡とは、胃カメラや大腸ファイバーのことです。

低侵襲手術は、私たちにお任せください!



泌尿器科部長 瀧内 秀和



消化器センター部長 市原 隆夫

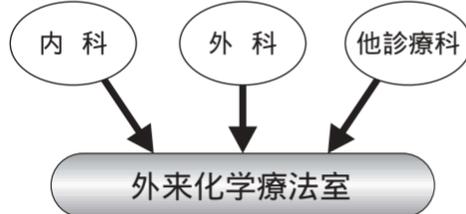


外科部長 新居延 高宏

## 外来化学療法室OPEN

外来化学療法とは、当院では、平成18年9月から、1階外科診察室西隣に「外来化学療法室」を新設いたしました。ガンの治療は、大きく分けて3種類あります。手術、「放射線療法」、そして「抗がん剤による化学療法」です。化学療法は、以前は抗がん剤の使用法や副作用の管理が難しいため、入院患者様が対象でした。ところが、近年、新しい抗がん剤の登場や副作用を抑える治療法(支持療法)が進んだため、外来で化学療法を行うことが増えてきました。

従来 各科の外来で化学療法



独立した設備、スタッフによる安全性を高めた外来化学療法

安全性を高め、療養環境が整備された外来化学療法室

外来での化学療法が増えている昨今、従来のように各診療科が個別に化学療法を行う方式では、安全管理に懸念が生じます。そこで化学療法は、一般診療から独立させ、外来化学療法室に集約しました。

私たちが担当します!



外科医長 林田 博人



薬剤部長 小西 清信

従来との違い

独立化し、患者様のプライバシーに配慮

専任スタッフの配置で、患者様対応を充実

チームで患者様の治療内容を把握

使用する抗がん剤は、薬剤部で独立して調剤

リクライニングチェア導入で、療養環境を改善

化学療法を受けられる方の専用の治療室ですから、他の外来患者様は入室されぬよう、プライバシーに配慮しています。当室では、専任看護師、薬剤師、医師などの医療スタッフがチームを組み、個々の患者様の治療内容とスケジュールを把握し、治療後のケアを行います。

また、化学療法室で行われた採血検査の迅速化を図り、安全性と同時に効率化にも努めています。

なお、外来化学療法室では、テレビ付リクライニングチェアでリラックスした環境で、点滴治療等を受けてい

安全性が重要な抗がん剤については、外来化学療法



「より快適に、より安全に」をテーマに、9月にオープンした外来化学療法室

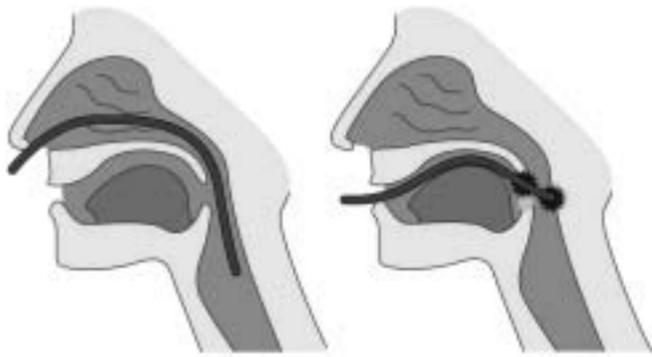
西宮市立中央病院では、より安全で苦痛のない消化器内視鏡検査・治療をめざして、また患者様の不安感をできる限り取り除くよう配慮することを目的として、新たに内視鏡センターが10月上旬にオープンします。

### 最新のカメラシステム

### 消化器疾患に強みの内視鏡

鏡検査は平成13年度、約500件だったのが、平成17年度には、636件へと年々増加してきました。今後もこれまで以上に、多くの患者様へ最先端の高度医療を提供いたします。

内視鏡センターで取り扱う検査の主な内容は、上部消化管内視鏡検査(いわゆる胃カメラのこと)、と下部消化管内視鏡検査(大腸ファイバー)で、これらの内視鏡を使った検査や治療の多くはこの内視鏡センターで行います。近年、消化管検査と治療における技術の向上、および内視鏡機器の発達には目を見張るものがあります。当院では、上部消化管内視鏡検査は平成13年度、約1700件だったのが、平成17年度には2213件、下部消化管内視



(左図) 咽頭反射が軽減される経鼻内視鏡挿入イメージ  
(右図) 従来の経口式内視鏡の挿入イメージと咽頭反射

### 負担を軽減する経鼻内視鏡

当センターのオープンにあたり、最新型の「経鼻内視鏡けいびないしきょう」

を導入いたしました。経鼻内視鏡とは、通常の胃カメラのように、口からカメラを挿入するのではなく、鼻からカメラを挿入する最新のカメラシステムです。これまでに胃カメラの検査を受けられた方は、嘔吐反射の「オエー」という不快を経験された方も多いと思います。この経鼻内視鏡は、経口式カメラが苦手な方でも、違和感なく検査を受けていただけます。



左から、通常の胃カメラ、経鼻内視鏡、経鼻内視鏡の口径は、鉛筆より細い

このほかにも、経鼻内視鏡では、経口式内視鏡と違い、検査中、患者様との会話が可能であり、咽頭反射の強い方には朗報です。ただし、組織学的検査は可能ですが、治療処置はできません。また、鼻腔が狭い方では経鼻挿入ができない場合があります。前処置も従来法とは異なりますので、ご希望の方はあらかじめ予約時にお知らせください。

# 内視鏡センターOPEN

## 患者様の視点に立つて改築された内視鏡室

内視鏡室の改築にあたり、希望者に対して苦痛のない鎮静下麻酔による内視鏡も可能となりました。緊張と不安で、検査・処置が終われば、一刻も早く帰りたいという患者様の心理状態を取り除き、次もここで検査・治療を受けようと思っただけの魅力のあるセンターを目指し、最新の設備と技術を駆使して取り組んでゆきたいと思えます。

## 主な対象疾患

内視鏡センターでは、胃カメラによる上部消化管検査および大腸ファイバーを用いた大腸癌2次検診などの検査も行えます。

## 病院内で連携を図る内視鏡センター

内視鏡的切除の適応がないと判断された消化器疾患に對しても、当院外科の低侵襲手術治療チームにより、腹腔鏡下胃切除や腹腔鏡下大腸切除等の低侵襲治療が積極的に行われています。

手術後は、消化器センターへご入院いただき、消化器内科と消化器外科の専門医によるチーム医療を提供いたします。

今後、急性期病院・地域支援型病院として、地域に開かれた成長するセンターを目指してスタッフ一同取り組んでゆく所存です。病気に對する治療はもちろんだが、病気に對する不安などでお悩みの患者様がおられましたらお気軽に当院へご相談ください。

### 内視鏡センターのご利用を希望される方へ

下記の方法を經由して、内視鏡センターで検査や処置が行われます。

当院の外来診察および病棟に入院された場合  
地域のかかりつけ医(診療所)の紹介による来院



内視鏡センター部長  
小川 弘之  
日本内科学会認定専門医、指導医  
日本消化器病学会専門医  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本肝臓学会専門医

# 充実する救急医療体制

## 内科2次救急をはじめました!

月曜日・水曜日(祝日除く) 内科2次救急 午後9時まで

開業医からの紹介患者・救急搬送患者を受け入れ、中央病院では7月18日、2次救急診療とは、主に(火)から、祝日を除く毎週月曜日・火曜日・水曜日の午後6時00分から午後9時00分まで、内科2次救急診療をはじめます。



《受け入れの対象となる患者様》  
地域の開業医からの紹介患者  
救急車による搬送患者  
これまでは、地域の診療所で夕方に診療を受け、検査や入院が必要とされる患者様は、金曜日の2次救急

## 小児科2次救急・外科1次救急

月曜日・火曜日・金曜日(祝日含む) 小児科2次救急  
月曜日・金曜日(祝日含む) 外科1次救急

夜間の救急対応可能な病院を西宮市では、病院群輪番制病院として、市内の病院が毎日分担して、救急医療体制を整えています。中央病院も輪番制病院の一として、救急医療体制を整え、急な発熱、ケガなどの夜間の救急医療ニーズに応えられるよう取り組んでいます。

中央病院では、特に少子化対策、小児科不足などから必要とされる小児科2次救急医療体制については、祝日を含む月曜日・火曜日・金曜日の3日間対応できるように取り組んでいます。

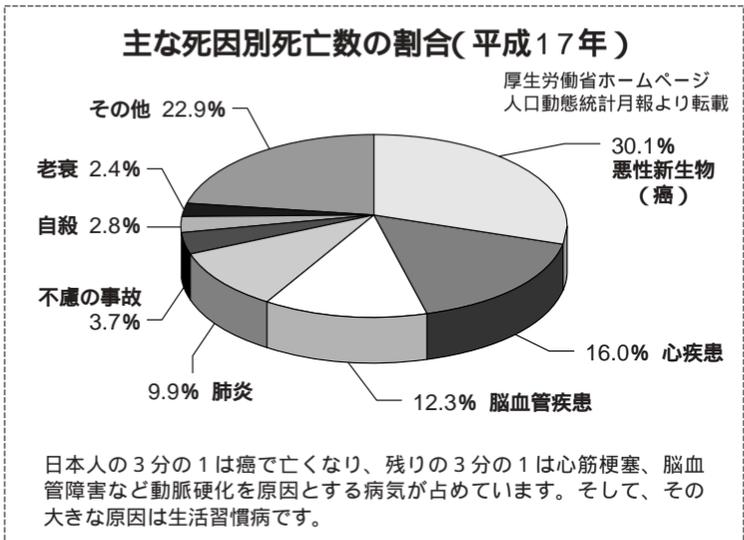
### 中央病院の救急医療体制

区分	月曜日	火曜日	水曜日	金曜日
小児科2次救急	18:00~翌朝7:00	18:00~翌朝7:00		18:00~翌朝8:00
外科1次救急	18:00~翌朝8:00			18:00~翌朝8:00
外科2次救急				18:00~翌朝8:00
内科2次救急	18:00~21:00	18:00~21:00	18:00~21:00	18:00~翌朝8:00

# 人間ドックを受けよう!!

## 定期的な人間ドックで病気を未然に防ぐ!!

自分は健康だから検査は必要ないと思っている方、それは大きな間違いです。人間ドックや健康診断はあなた自身が病気でないことを自覚するためのものではありません。検査結果を確認し、生活改善を行い、今後の健康を保つためのものでもありません。健康な方でも、定期的に検査を行い、過去の結果と比較することにより、自身の体の変化をいち早く知ることが、病気を未然に防ぐ有効な手段のひとつです。



## 半日一般ドックに新コースを設定

半日ドックに「半日一般脳付ドック」のコースを新設いたしました。これは、従来の半日一般ドックのコースに人気の脳ドック項目を追加したものです。半日コースの更なる充実を図りました。ご好評につき現在1月まで予約は受けかねますが、2月分は、11月から予約を開始いたしますので、ぜひお問い合わせください。

## 休養を兼ねた1泊2日ドック

1泊2日ドックでは、近郊のホテルで宿泊している。食・洋食・鉄板焼の3つのメニューを用意しホテル内のレストランにて、お好み

に合った食事を召し上がり、健康チェックが重要です。ぜひ、人間ドックをご受診されることをお勧めいたします。普段からの健康

## オプション検査に話題の内臓脂肪検査

**内臓脂肪検査**  
内臓脂肪の量を測定する検査です。内臓脂肪の蓄積は様々な病気を引き起こしやすくなります。このような状態をメタボリックシンドロームと言います。肥満症、「高血圧症」、「糖尿病」、「高脂血症」を重複して発症する恐れがあり、動脈硬化のリスクが高くなります。

**腫瘍マーカー検査**  
検査方法は採血のみです。ある種のがんでは、一定の検査項目が高値になります。ただし、初期のがんでは数値として現れない場合があるなど、あくまでもがんの補助診断として役立てようとするものです。

**骨密度検査**  
年齢を重ねると骨密度が低下し、骨がもろくなります。これが骨粗しょう症で、腰痛、脊椎の変形、ちよっとしたことで骨折の原因となります。この検査で骨の状態を知ることができます。

**歯科口腔疾患検査**  
診察及びパノラマ撮影等2種類のレントゲン検査を行い、歯、歯周組織の疾患だけでなく口腔全体の腫瘍の有無などを調べます。

**マンモグラフィ検査**  
X線による乳房撮影により、触診と合わせる事で乳がんの発見に役立ちます。



内臓脂肪型肥満は、様々な病気の要因となります。早期に発見し、生活改善を行うことで、病気を未然に防ぐことができます。



写真(上)=MRI(磁気共鳴断層装置)...脳動脈瘤などの脳疾患等の発見に脳ドックで活躍。写真(下)=CT(X線コンピューター断層撮影装置)...ヘリカルCTで肺疾患等の発見に肺ドックで活躍

人間ドックオプション項目

検査名	料金(税込)	備考
内臓脂肪検査	5,000円	1泊2日コースのみ
歯科口腔疾患検査	7,350円	同上
マンモグラフィ検査	2,835円	同上(木~金曜日のみ)
骨密度検査	1,260円	1泊2日コース及び半日一般ドックのみ
肺がん腫瘍マーカー(シフラ・ProGRP)	3,780円	同上
婦人科系がん腫瘍マーカー(CA125)	1,260円	同上

半日ドックメニュー	料金(税込)	実施曜日(祝日を除く)	実施時間	内容
半日一般ドック	42,000円	月曜日	8:30~13:00	尿、血液全36項目、X線、腹部超音波、心電図、子宮頸癌等の検査
半日一般脳付ドック	68,250円	月曜日	8:40~13:30	半日一般ドックのメニュー+MRI及びMRA、眼底検査
半日脳ドック	44,100円	月・金曜日	10:00~13:30	MRI・MRA検査、血液検査全28項目、眼底検査、心電図検査
半日肺ドック	37,800円	火曜日	10:30~12:00	喀痰細胞診、胸部ヘリカルCT検査、胸部X線検査

1泊2日ドックメニュー	料金(税込)	実施曜日(祝日を除く)	実施時間	内容
1泊2日ドック	84,000円	火~水曜日 木~金曜日	8:30~翌日13:00	尿、X線、腹部超音波、心電図、子宮頸癌等の半日一般ドックの検査項目に加えて、糖負荷検査や甲状腺機能などの血液検査全47項目、眼底眼圧検査、前立腺検査、乳房検査などを実施します。
1泊2日ドック(脳付き)	112,350円	同上	同上	
1泊2日ドック(肺付き)	103,950円	同上	同上	
1泊2日ドック(脳・肺付き)	132,300円	同上	同上	

人間ドックの予約・問い合わせ 西宮市立中央病院健康管理センター  
0798-64-1515 内線201 平日午前8時30分~午後4時30分まで

## 市民健康講座を開催

西宮市立中央病院では、病気に対する診断と治療法について関係する診療科の専門医師が、わかりやすく解説し、悩みに答える「西宮市民健康講座」をおおむね2ヶ月に1回の割合で開催しています。

多くの方に参加いただけるように、土曜日の午後を利用し実施していますので、毎回多数ご参加いただいております。

お悩みの方、興味のある方はぜひご参加ください。また、同時に兵庫県看護協会の協賛により、看護師がボランティアとして、あなたの保健室を講座後に開き、簡単な健康相談や血圧測定・体組成測定なども同時に行っておりますので、こちらもご参加ください。参加費無料。事前申込不要。

開催時期	テーマ
18年11月末	痛み・薬とブロック
19年1月末	前立腺と腎臓の腫瘍
19年3月末	頭痛

詳しくは、市政ニュース等でお知らせいたします。開催時期・テーマ・会場については変更になる場合があります。

## 病院ボランティアも活躍中!

中央病院では、現在約40名のボランティアの方が交代で活動しておられます。病院ボランティアさんをご紹介します。

病院ボランティアは、正面玄関において、患者様に対し院内のご案内、歩行や車椅子の介添えを行い、皆様に安心してご利用いただけますようお手伝いしています。

ボランティア室では、ガーゼや綿花を使って医療材料を作り、滅菌前のパッケージ詰めをしています。介護用品・設備品のカバーや書類運搬用の布カバンづくり、簡単な事務作業も行っています。



小児のための点滴用着はタオル地で作り、便利で着やすいと好評です。また、ロビーや廊下の整理整頓を行い、療養環境を整えています。

さくらFM(アットホーム)の放送について  
西宮コミュニティ放送さくらFM(78.7メガヘルツ)で、放送中の「アットホーム」の「みや」の番組中でおおむね月1回(第3火曜日)の割合で西宮市立中央病院の各医師が交代で専門の分野についてお話しさせていただきます。【放送時間】毎月第3火曜日 午後7時~午後7時45分 再放送 放送日翌日 午前8時10分~8時55分 いずれも番組中の約15分です。